

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	E S D ・ 環境教育演習						授業形態		演習	
科目コード	750184	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								ICT活 用	○
授業概要	新・学習指導要領は、ESDを一つの基盤として、議論が進められ策定に至った。学習指導要領から、最終的にESDという言葉は消えたが、その理念や内容は確実に取り入れられ、ESDと学校教育の融合性は高い。 本演習では、野外活動を通してさまざまな自然環境や環境教育実践に触れて、受講者自身が自然体験することを基礎とする。その上で、環境教育を生態学及びESDの視点から捉え、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、地域の環境問題の見聞を踏まえて、受講者自身が環境教育のプログラム立案をおこない、環境教育の実践的な力を身につけることを目指す。本講義は、3年次開講の「環境教育論」の実践編である。									
関連する科目	環境問題入門、ESD・環境教育論、ESD・環境問題演習									
授業の進め方 と方法	はじめに、ESDと学校教育に関する理論や現状について学ぶ。その後は、フィールドワークの準備と実施、まとめを繰り返す。最終的にはプログラムを立案し、模擬的にプログラムを実践する。 ICT機器はタブレット（iPad）をGISおよびプレゼンテーションに使用する。また、スマホで位置情報付き写真を撮影し地図上に示す方法を学ぶ。									
授業計画 【第1回】	< 1日目> 第1回:森、川、里、海の生態系、現状と課題 ・分担して現状と課題を事前に調べ、簡単なプレゼンをする(各自10分発表、5分討論)									
授業計画 【第2回】	< 1日目> 第2回:干潟の生態系（フィールドワーク） ・海川里山のつながりのなかで干潟について学ぶ ・鹿児島湾の重富干潟で生き物調査									
授業計画 【第3回】	< 1日目> 第3回:干潟の生態系（フィールドワーク） ・海川里山のつながりのなかで干潟について学ぶ ・鹿児島湾の重富干潟で生き物調査									
授業計画 【第4回】	< 1日目> 第4回:干潟の生態系（フィールドワーク） ・海川里山のつながりのなかで干潟について学ぶ ・鹿児島湾の重富干潟でなぎさミュージアムの見学									
授業計画 【第5回】	< 1日目> 第5回:干潟の生態系 ・海川里山のつながりのなかで干潟について学ぶ ・重富干潟フィールドワークのまとめ									
授業計画 【第6回】	< 2日目> 第6回:森、川、里の生態系(1) ・沖水川流域でのフィールドワーク(水生生物調査、水質調査)									
授業計画 【第7回】	< 2日目> 第7回:森、川、里の生態系(2) ・沖水川流域でのフィールドワーク(水の流れがつくる景観)									
授業計画 【第8回】	< 2日目> 第8回:森、川、里の生態系(3) ・沖水川流域でのフィールドワークのまとめ（理科実習室）									
授業計画 【第9回】	< 2日目> 第9回:森、川、里の生態系 ・里の生態系、森林生態系：海川里山のつながりのなかで里山と森林生態系について学ぶ ・川の生態系：海川里山のつながりのなかで河川について学ぶ									
授業計画 【第10回】	< 2日目> 第10回:森、川、里、海の生態系、現状と課題 ・2つのフィールドワークの経験も加え、森、川、里、海の生態系、現状と課題について各自担当部分のプレゼン:資料作成(PowerpointやKeynoteを用いた資料作成)									

授業計画 【第11回】	<3日目> 第11回:ESD・環境教育と学校教育（総合的な学習の時間を中心に） ・自然に学ぶ意義:ESD(持続可能な社会を形成するための教育)の視点に立った環境教育について理解する。 ・ESDと学校教育（学習指導要領）の親和性について理解する ・学校教育における環境教育の現状と課題(ESDカレンダーと問題解決学習)について把握する。
授業計画 【第12回】	<3日目> 第12回:「総合的な学習」における環境教育プログラムの立案:教科等との関連性 ・各自のテーマと教科等との関連性について調べる ・対象学年の設定を行い、授業のイメージをもつ
授業計画 【第13回】	<3日目> 第13回:「総合的な学習」のプランニング ・ESDカレンダー及び指導計画の作成:教科等の教科書及び年間計画を参考にしてESDカレンダーを作成する。 ・教科等の教科書及び年間計画を参考にして探究的な授業の指導計画を作成する。
授業計画 【第14回】	<3日目> 第14回:「総合的な学習」のプランニング ・プレゼン資料作成(PowerpointやKeynoteを用いた資料作成) - 担当テーマの現状と課題、解決すべき課題、授業プラン（ESDカレンダー、年間計画、指導計画など）
授業計画 【第15回】	<3日目> 第15回:プレゼン「わたしの環境教育プログラム」 ・各自が作成したプログラムを発表する。 ・他の学生のプレゼンとの関連性を見つけ、さらに横断的なプレゼンにブラッシュアップする。
授業の到達目標	学校教育・幼児教育のなかでESDの視点に立った環境教育に取り組む意義を理解し、現状把握と問題点の認識を図る。その上で、受講者自身が野外活動を体験し、地域の環境に関する生態学および科学的知見を蓄積し、その知見を活用した環境教育を立案、グループ学習を通して練り上げ、表現するまでのプロセスを経ることで、初等教育（幼稚園を含む）における環境教育の実践的な指導法を習得することを目標とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	反転学習として、講義前に事前課題を課し（1時間程度）授業に活用する。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。
評価方法・基準	演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。
参考書	・「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究最終報告所」（国立教育政策研究所・教育課程研究センター） ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター（東洋館出版社） ・「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉（学文社） ・「小学校学習指導要領解説 理科編」（文部科学省）
備考	・夏季休業中講義を実施する。 ・天候等により講義内容が入れ替わること、変更になることがある。 ・フィールドワークとして、干潟調査（重富干潟）または河川環境調査（沖水川）をおこなう。